

## 第2回大田区MICE推進会議 議事要旨

日 時：平成30(2018)年10月26日(金)14:00~16:00

場 所：大田区役所 第5委員会室

出席者：玉井会長、荻原委員、児玉委員、小橋委員(代理出席：小川氏)  
小山委員、坂口委員(代理出席：飯田氏)、濱田委員、平井委員  
細島委員、宮澤委員、横内委員  
※ 五十音順(会長除く)

オブザーバー：

(公財)大田区文化振興協会 事務局長 荒井氏

(公財)大田区体育協会 事務局長 柏原氏

(公財)大田区振興協会 事務局長 佐藤氏、

(一社)大田観光協会 事務局長 杉村氏

産業経済部産業振興課長 小澤氏(代理出席：川島係長)

観光・国際都市部スポーツ推進課長 鈴木氏

※ 五十音順

### 1. 開会

事務局から、開会が宣言された。また、MICE関連部署のオブザーバー参加について確認が取られ、会長に了承された。

### 2. 前回の討議内容について

事務局から、次の議題と合わせて説明を行う旨が案内された。また、前回の議事内容を公開するため、発言内容等について意見がある場合は事務局まで連絡するよう依頼が行われた。

### 3. 第1回推進会議において挙げられた論点について

資料1「第1回推進会議において挙げられた論点について」に基づき、前回の主な討議内容と挙げられた論点について、事務局から説明が行われた。

(会長)

- ・ 第1回推進会議で挙げられた論点を整理していただいたが、連携体制の充実に関連しては、この論点に加えて人材育成の視点を入れる必要があると考えている。
- ・ 今日の会議では、どこまで議論を深めることを目指しているか。

(事務局)

- ・ MICE推進会議は、翌年度まで2か年かけて議論を深めていく予定であるが、本年度の議論の成果について、中間報告としてとりまとめたいと考えている。
- ・ また、区が並行して進めている「(仮称)新大田区観光振興プラン」の策定にあたって、この会議で今日までいただいた意見を反映させることとしている。
- ・ 区はMICEに対して特段意識しないまま観光振興を行っているので、MICEの取組が遅れていると感じる。大田区全体で取り組み、周遊促進に繋げるためにはどうしたらいいか、アイデアをいただきたい。

(会長)

- ・ 前回の観光振興プランではMICEを取り上げていなかったのか。

(事務局)

- ・ 「コンベンション」等のMICEを想起させる文言は入れていたが、分量としても少なかった。

(委員)

- ・ この会議とは別の会議体で、それぞれ観光振興とシティプロモーションが並行して検討されているが、MICEを観光振興の中に位置付けてしまうと、大部分がかぶってしまう恐れがある。MICEは産業振興の中に位置付けるべきではないかと考えるが、観光振興プランに含めるとしたら、どのように切り分けて含める必要があるか考える必要がある。

(会長)

- ・ MICEを観光振興プランへ含める場合、その含め方をきちんと考えておかないと、単なる観光物産展になってしまう。非常に重要な視点である。

(委員)

- ・ 区内でMICE開催会場となり得る施設は、既に稼働率がかなり高いという話であったが、観光の視点からはあくまでMICEはきっかけで、来ていただいた人々に何をしてもらおうかというところが重要であろう。その方向性が定まれば、あとは手段や方法の話となるため、検討しやすいはずである。

(会長)

- ・ まずは資料1の区分1「MICE推進における目標等の設定」と2「大田区が取り組むべきMICEの内容」について議論を深めると、3「連携体制・推進体制の充実」と4「情報発信」については考えやすくなるのではないかとことだろう。まずは、区に取り組むMICEの目標等について重点的に議論していただきたい。

(委員)

- ・ 本日は、観光振興プランに載せる内容について議論をしたいということであったが、中長期の施策について議論すれば良いのか、策定のための素材について議論すれば良いのか。

(委員)

- ・ 観光の視点から区内の産業について考えると、工場見学等の良い素材がある。
- ・ 既に区への訪問者は十分多い中で、彼らをいかにして区内に留めるかを考えることが短期的に考えるべきことだろう。

(会長)

- ・ 観光と産業の掛け合わせ方についても検討していく必要がある。

(委員)

- ・ M I C E 推進会議はまだ開催2回目であり、もう少し議論して、たたき台となる方向性を打ち出してからまとめた方がよい。
- ・ 観光はM I C Eの一部でしかないと思うので、もう少し広い視点で考えられたらいいのではないか。
- ・ 航空会社としてはさまざまな関わり方ができるが、整備場見学への受入や、空港の発着枠等は既にいっぱいであり、枠を拡大しようにもできない状態である。

(会長)

- ・ 既にキャパシティオーバーであり、M I C E誘致を仕掛けようにも仕掛けられない状態であるというのは考慮すべき重要なポイントである。
- ・ 現在のポテンシャルや、活用できる素材を踏まえて議論をしなくてはならない。

(委員)

- ・ 区内のホテルも稼働率が高く、今すぐ積極的にM I C E誘致に協力していけるような状態ではない。

(委員)

- ・ インバウンドを狙いたいか国内を狙いたいかによって、「大田区らしさ」としてどのような部分を使っていく必要があるのかが変わってくる。
- ・ まずは、区がM I C E推進の資料に掲げている「大田区らしさ」という言葉について、具体的な洗い出しを行っていただきたい。その上で、利用する素材とターゲットを確定すれば、その後の仕組み、例えば優先的にホテル予約が取れる仕組みなども検討しやすいのではないか。

(委員)

- ・ 現時点で「大田区らしさ」の方向性を決めるのが難しいのであれば、まずは大田区が保持している素材を整理して、それを基に深掘りできそうなところについて検討していけばいいのではないか。

(委員)

- ・ 並行してシティプロモーションについての議論も進められている中で、各委員で区に対する認識が異なっている。まずは共通認識を作るところから始められたら良い。

(会長)

- ・ 新しい観光振興プランの策定にかかる議論において、区の保持する観光コンテンツの整理等も行われているのか。

(事務局)

- ・ 観光コンテンツを網羅的に確認しているわけではない。
- ・ 昨年度の観光統計・マーケティング調査の中では、羽田空港の重要性が指摘されているほか、臨海部に蓄積する物流関連施設など、産業関連で特徴的な資源が多く、これらの活用可能性が高いという結果が出ている。

(会長)

- ・ 何か議論のたたき台となる資料があると良いが、MURC(コンサルタント)の方でデータを持っているのだろうか。

(MURC)

- ・ 昨年度の観光統計・マーケティング調査に掲載した範囲であれば、必要なデータを提供可能である。

(会長)

- ・ 区の持つ素材を基に、区が単独で実施できるMICEと、他とアライアンスを組んで実施するMICEに分けることから始める必要があるだろう。
- ・ MICEが単独で実施できるということになると、かなり観光の要素が強まり、地元を巻き込んでいく方向性になるだろう。

(委員)

- ・ シティプロモーションにかかる会議体から知恵を拝借しながら議論を進めていきたい。区の状況や素材からポテンシャルについて考えることが非常に重要だと感じるが、このMICE推進会議で区のポテンシャルについて議論を進め、あとからシティプロモーション側で議論されたブランドイメージに合わせていくことになるだろうか。

(会長)

- ・ 今年度、観光庁の「ユニークベニュー利用促進に向けた地域連携モデル構築事業」における委員会で、泉佐野市が「エアポートMICE」を打ち出した提案を行っている。当たり前ではあるが、大田区も羽田空港と絡めてMICEについて考え、ブランディングを行っていく必要がある。
- ・ 区が単独でMICEを実施するとなった場合、上手くブランディングしていけるものがあるのかについては、今後議論していかなければいけない。

#### 4. (仮称) 新大田区観光振興プランにおけるMICE施策の位置付けについて

資料2「(仮称) 新大田区観光振興プラン構成案(平成30年10月26日時点版)」に基づき、現在策定中の観光振興プランの構成案について、事務局から説明が行われた。

(事務局)

- ・ 大田区は全国レベルの名所旧跡がほとんどない中で、これまでの10年間、生活圏に「観光」があり、人々を惹きつけられるのではないかとということでPRを行ってきた。
- ・ 昨年度の観光統計・マーケティング調査では、区民はまだ、観光面で他地域の住民に大田区をおすすめするには至っていないという結果が出ている。新プランに基づいて活動する今後の5年間では、区民等にも観光PRを担っていただけるよう、都市観光を打ち出していきたいと考えている。
- ・ MICEは産業でもあり観光でもあると考えている。

(会長)

- ・ MICEビジネスはコミュニケーションビジネスであるため、推進主体が非常に重要な役割を担う。推進体制について、検討していく必要がある。

(委員)

- ・ これまでの議論を聞いていて、大田区のMICEは観光寄りだと感じた。あまり魅力的な地域だと感じられていない中で、MICEによって区の魅力を上げ、人を呼ぶ目的だと思うので、観光素材の一つとして使っていけばいいのではないか。

(委員)

- ・ 都内観光の行先として、大田区が選ばれることはあまりない。
- ・ 第一に区に足を運んでもらうこと、第二に来ていただいた方に長く滞在してもらうことが重要だと考えると、産業よりは観光がメインでよいのではないか。ターゲットによって戦略も異なるだろうが、ものづくり、海苔、江戸前寿司等の素材を洗い出した上で、それらの組み合わせを旅行会社等に提示して誘客に結び付けられたら良い。

(会長)

- ・ 新しい観光振興プランそのものに対する細かい内容の議論になってくると、この推進会議の担当範囲から外れてくるので、このあたりにとどめることにしたい。次の議題について説明をお願いしたい。

## 5. (仮称) 新大田区観光振興プランへの入込みを提言するMICE施策について

資料3「〔暫定版〕大田区MICE推進会議 中間報告書(案)」に基づき、現在策定中の観光振興プランの1つの柱として位置づけるよう提言予定であるMICE施策の案について、事務局から説明が行われた。

(会長)

- ・ 新しい観光振興プランへの記載にあたっては、絞り込みは行わず広く記載することとして、より具体的な部分は次回以降議論をいただきたいということである。
- ・ 地域一体という点からみて、宿泊施設はMICEにどのような関わり方ができるだろうか。

(委員)

- ・ 自身の参画しているホテル事業者の団体はチェーンホテルの事業者が大半であり、担当者入替が頻繁なため引継が困難である。そのような中、彼らまで巻き込んで取り組むという場合は、なかなか一体感が生まれないのではないかと感じる。

(会長)

- ・ 地方でも数年後に一気に事業者が撤退してしまう可能性があるということで、うまく引き継げるのかといった同じような議論が起こっている。
- ・ 新しい取組を推進するだけでなく、現在の取組の修正も合わせて実施していく必要がある。

(委員)

- ・ 中小ホテルは、高齢化と後継者不足により、ホテルの存続自体が難しい状況にある。チェーンのホテルとは違った形で協力が難しい状況にあると思う。

(会長)

- ・ 滞在型の観光を目指す際には宿泊施設が要となる中で、宿泊事業者個々の努力ではどうにもならない面がある。地域全体でどのように宿泊施設をサポートしているか、そして地域全体の観光振興をどのような方向性で行っていかるといいう議論が必要であるが、これはMICE推進会議の枠組からは少しずれてしまう。新しい観光振興プランを議論している会議体等で、並行してこのような議論を行っていただく必要がある。
- ・ マーケットが変動していく中で、おそらく既存の資源や施設だけでMICEに取り組んでいくことは難しい。各ステークホルダーが視点を変え、先を見据えて必要なものを検討していく必要がある。
- ・ このMICE推進会議は来年で終了を予定しているとのことだが、最終的なアウトプットとして早く目に見える結果を追い求めていくのか、長期的な視点で必要なものを考えていくのかといった点も皆さんにご意見をいただきたい。

(委員)

- ・ 長期滞在者やリピーターをどれだけ作れるかが重要となってくると考えている。

(委員)

- ・ 区内のMICE対応施設の稼働率が非常に高い中、今後MICEを誘致していく上で、稼働していない部分を埋める形でMICEを入れていくのか、それとも戦略的に今の利用者をMICE利用者に替えていくのか、そしてこれらを短期的に行っていくか長期的に目指していくかで、やるべきことが変わってくる。
- ・ 大田区は、MICEに取り組んでいくための短期的な環境は整っていると感じる。来訪ついでに周遊してもらい、もしくはリピーターとして観光目的で再訪してもらうためには、現時点でどのようなメニューが提供できるかといった点について一度見直すことで、取り組むべきことが見えてくるのではないかと。

(委員)

- ・ 現在は宿泊施設の稼働率が非常に高く、これ以上の受入が難しいということであるが、数年後に羽田空港に隣接して1,000室以上の客室ができることで、状況が変わってくるのだろうか。

(委員)

- ・ 大森や蒲田でもホテル建設は続いている。ホテル業界の担当者も、2020年までは良いかもしれないが、その後供給過多になるのではないかと危惧している人が大半である。

(委員)

- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後の将来予想が立てにくいと感じる。

- ・ 現在国際線の搭乗率は非常に高く、航空会社としても、これ以上外国から人を呼ぶことはなかなかできない状況にある。保有機材の中小型化が進んでおり、大規模な催事に合わせて通常より大きな機体を使用する等の柔軟な対応も困難となっている。MICE誘致に協力したくてもこのような制約があり、現実を踏まえて議論する必要があると感じる。

(会長)

- ・ 国の在り方にかかる重要な論点である。
- ・ 日本が今後、外国人旅行者を年間で5,000万人、6,000万人と受け入れていくことは難しいだろう。日本は他国と陸続きでないため、空もしくは海から人を呼ばなければならないが、諸外国で陸からの入国を除いた旅行者数を見てみると、最も多いスペインですら約5,000万、観光大国のフランスでは約3,500万人しかない。現時点では、日本がこれらの国々以上の旅行者を受け入れられる空港・港湾設備を確保できるとは考えにくい。
- ・ このような状況も踏まえる必要がある中で、ヘッドクォーターの存在が非常に重要となる。拡大路線をとるか、それとも拡大は無理だと判断して別の方向性を掲げるかについては、区で大きな意思決定を行い、その方向性に基づいてヘッドクォーターが指揮を執っていく必要がある。
- ・ 現時点で、区にそのような大きな目標はあるのだろうか。

(事務局)

- ・ 区として、現時点でそのような大きな目標はない。
- ・ しかし、全国でMICEが地域の活力を生んでいる先進事例は多々ある中で、大田区でも既存の施設を活用すれば産業界の活性化等が実現できるのではないかと考えている。
- ・ 各施設の方には飲食店や宿泊施設等を案内していただいているものの、情報提供のみにとどまっており、手配したり特典をつけたりといったコンシェルジュ機能がない。その結果としてMICE需要が他の地域に流出しており、多大な機会損失が起こっていると考えている。
- ・ 区としては、せっかく来訪している方がいるのであれば地域を巡っていただきたいという考えは持っているが、コンシェルジュ機能をどこに置けば良いのか等のその先の考えについては全くアイデアがない。この会議体で知恵をいただければと考えている。
- ・ 素材の提供が少なく申し訳ないが、方向性の示唆となるような議論をいただけると大変ありがたい。

(会長)

- ・ MICEが核となって区全体を動かすということにはならないだろう。MICEという視点から区を見て、議論ができれば良い。
- ・ 全く新しい視点で考えるのは非常に難しいため、まずは今あるものを見直すことが重要だと感じる。
- ・ 庁内でMICE推進の議論をした際の資料など、これまでに蓄積された資料を、議論の素材としてまとめて、当会議に提出していただきたい。

(委員)

- ・ どのような方に来てほしいかを考え、ターゲットを絞って議論を進める形で良いと感じた。
- ・ M I C Eを観光か産業のどちらかであると考えてるのではなく、産業素材を使って観光活用を行う、といった流れであれば、双方に良い影響が及ぶのではないか。
- ・ 資料3の記載内容については、施策2での大田区らしさといった部分を明らかにしていれば良いと考える。

(会長)

- ・ 昨年度の庁内検討の際に「大田区らしさ」を検討していると思うが、MUR Cではそのデータを所持しているだろうか。

(MUR C)

- ・ 昨年度実施された庁内検討については、弊社は関わっていないため、直接関連するデータは保持していない。弊社が保有しているデータや知見で有用なものがあれば、できる限り対応し、提供させていただく。

(委員)

- ・ 大田区「らしい」という表現は適切なのだろうか。

(事務局)

- ・ 大田区「らしさ」の中には他にはない特色を活かしていきたいという意味を込めている。他自治体に及ばない点も含まれると考えているが、他自治体に及ばない点は必ずしも全てが悪い意味を持つわけではなく、何らかの形で活用可能性があると考えている。

(大田観光協会)

- ・ 大田区の特色は様々であり、多様な「小さいM I C E」の可能性があると考えている。
- ・ 例えば、多摩川でスタンドアップパドルボートの大会を実施した際は、富士通の協力で、GPSで選手の動きを追ってリアルタイムで示したことから、区の技術とスポーツが融合したイベントとしての可能性を感じた。
- ・ 大林宣彦監督のトークショーで、大田区は松竹キネマ発祥の地であることから、「全国の映画のふるさとである」と紹介していただいた。
- ・ 呑川の浄化やコミュニティバスの導入等には東京工業大学が絡んでいる。
- ・ 他都市と連携し、勝海舟や西郷隆盛に因んだ井ぶりを開発して飲食に絡めたイベントを行っている。
- ・ これらの区の特色を、M I C E誘致に結び付けられたら良いだろう。

(会長)

- ・ 「小さいM I C E」は良い言葉だと感じた。既存のものを組み合わせてM I C Eに取り組んでいくために、次回以降このようなテーマについて議論していただきたい。

(委員)

- ・ 区内の施設は通常であれば1年前からしか予約が取れないと思うが、民間企業がMICEを実施しようとした際に、優先されるような仕組みがあるのだろうか。

(大田区文化振興協会)

- ・ 区民ホールや区民体育館は区民のための施設であるため、基本的には1年前から抽選を行って平等に予約が取れる仕組みである。ご質問の点については、事業者や協会については、優先予約ができる仕組みがある。
- ・ ただし、PiOやアプリコは、現状として既に約8割が埋まってしまっているため、今のまま好調であれば、積極的にMICEを誘致することは難しいと考えている。

(事務局)

- ・ 先日、区議会議員と、例えば7年前から区の施設を予約できるよう仕組みを変えられるだろうか、という議論をしていたが、それでは区民が使いなくなってしまうのではないかというお叱りを受けた。
- ・ 区の施設における適切な予約開始の時期や仕組みについては早急に検討しなければならない。

(会長)

- ・ MICEの根底にある問題である。きちんとしたヘッドクォーターを設け、皆が許容できる体制を作っていかなければならない。レベニューマネジメント※ができるヘッドクォーターが必要である。
- ・ 観光振興プランに入れるMICE施策については、およそこの内容で問題ないということであったがよいだろうか。
- ・ (委員首肯) それでは、MICE推進会議としては、新しい観光振興プランに掲載するMICE施策の大枠としては資料3のとおり要望することとして決定する。

※在庫を持ち越せないビジネスにおいて、売上を最大化するマネジメント

## 6. 閉会

事務局から事務連絡が行われ、閉会が宣言された。

以上